九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

地震火山観測研究センター年報 : 2006 年度版

https://doi.org/10.15017/16958

出版情報：九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター年報. 2006, 2007-10. 九州大学大学院理学研究院 附属地震火山観測研究センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

はじめに

センター長　　清水　洋

当センターは，2000年4月に島原地震火山観測所から地震火山観測研究センターに改組され，九州における地震予知観測研究の中核施設として位置づけられました．センターは，地殻熱活動観測研究分野と背弧総合観測研究分野よりなる２つの研究分野で構成されていますが，実際には分野の垣根はなく，全職員が協力して地震予知および火山噴火予知のための観測研究を推進しています．

昨年度から今年度にかけては，３月に発生した能登半島地震と7月に発生した新潟県中越沖地震に対して，全国の関係大学と合同で海底地震観測を含む緊急余震観測を実施しました．また，2005年の福岡県西方沖地震の発生以降，福岡都市圏を横断する警固断層の地震活動の活発化が懸念されることから，同地域の観測強化に取り組んでいます．このほかの内陸地震の研究として，全国の関係大学と協同で跡津川断層帯の稠密地震観測を継続しています．さらに，プレート境界型地震に関しては，東京大学地震研究所などの海底地震研究グループと共同で，日向灘や東南海・南海地震の想定震源域の構造と起震応力場からプレート間カップリングについての知見を得るべく，観測と研究を実施しています．

火山の観測研究としては，雲仙火山の多項目観測や阿蘇山の化学観測などの継続のほかに，関係大学合同で実施された有珠山の集中総合観測や浅間山の火山体構造探査などに参加し，火山噴火ポテンシャル評価のための研究を行っています．さらに，雲仙火山においては，地震および地殻変動データの解析により，マグマ供給系モデルの精密化とマグマ供給量の推定のための研究を実施しました．今年11月には島原市において第５回火山都市国際会議が開催され，これらの研究成果とわれわれの地域防災への取り組みが報告されることになっています．

この年報は，このようなセンターの研究・教育活動を学内外の方々に理解いただくために作成しました．ご意見，ご批判，評価などをいただければありがたく存じます．

最後に，年報作成の助成をいただきました宮原三郎・理学研究院長，編集を担当した松島 健・山下夏樹両氏に感謝いたします．